

1 趣旨

「奥州市人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、市が策定する「地方版総合戦略」の基礎となっています。

第3次奥州市総合計画（総合戦略と一体化）の策定にあたり、その土台となる市の長期的な人口動向を示す現行の人口ビジョンが実態と乖離しており、あらためて見直す必要があることから、改訂をするものです。本ビジョンで示す「人口の将来展望（目標人口）」は、本市の持続可能性を測る指標であり、今後のまちづくりの方向性を左右する重要な基礎資料になります。

この度の改訂にあたり、昨年度、国勢調査をはじめとする各種統計データに基づく「基礎調査」及び市民の意識を把握するための「市民アンケート調査」を実施しています。

これらの調査結果を踏まえ、暫定版の「奥州市人口ビジョン改訂版（案）」を作成し、庁内WGなどに共有のうえ、既に総合計画策定作業の参考資料として活用しています。

今回、「人口の将来展望（目標人口）」を新たに設定し、「奥州市人口ビジョン改訂版（案）」として取りまとめるものです。

2 主な改訂内容

(1) 目標期間

現行人口ビジョンと同様に2060年まで

(2) 構成

現行人口ビジョンと同様の項目としますが、第3次奥州市総合計画に記載される「奥州市の概況」などは、改訂版の内容をそのまま活用することから、総合計画の体裁にあわせて作成しています。

また、ほぼ全てのデータを最新のものに更新することから、全面改訂の形となります。

(3) 将来推計人口

【現行版】

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計値に準拠

【改訂版】

奥州市の実績に基づく補正をしたデータにより各年・各歳の人口を推計

(4) 人口の将来展望（目標人口）の考え方

【現行版】

- ① 社会増減0を目指す
- ② 合計特殊出生率2.10を目指す

【改訂版】 ※将来人口の増減には、大きく3つの要因が影響

- ① 「生残率」は調整しない
- ② 「出生率」を調整
- ③ 「純移動率」を調整

3 改訂版における人口の将来展望（目標人口）の考え方

(1) 出生率の改善

【方針】 結婚・出産・子育てに関する市民の希望をかなえる社会の実現を目標とし、独自推計において「**出生率**」を改善する設定とします。具体的には、本市の強みである20代後半の高い出生率を維持させつつ、他の年齢階級、特に**全国平均を下回っている年齢階級の出生率を全国平均レベルまで引き上げる**ことを目指した仮定とします。

【理由】

- ・若者の社会減と並び、出生数減少による「自然減」の拡大も深刻な課題となっているため。
- ・本市の強みである「20代の高い出生率」を維持させ、今後の少子化対策の基盤とする必要があるため。
- ・市民アンケート調査で「若い世代の結婚・妊娠・出産の希望をかなえる支援」を求める声が多いため。
- ・具体的な目標（全国平均まで引き上げる等）を設定することが、市全体の合計特殊出生率を底上げする施策の検討につながるため。

※

(2) 若年層の純移動率の改善

【方針】 若者世代、特に10代後半から20代の転出超過を抑制し、Uターン・Iターンを促進することを目標とし、人口の将来展望において、当該年齢層の「**純移動率**」を改善する設定とします。具体的には、**10代後半から20代にかけての純移動率のマイナス幅を半減させる**仮定とします。

※「純移動率」は移動による人口の変化率。純移動率＝転入率－転出率
1年後に何パーセントが移動により増加又は減少するかを示した比率

【理由】

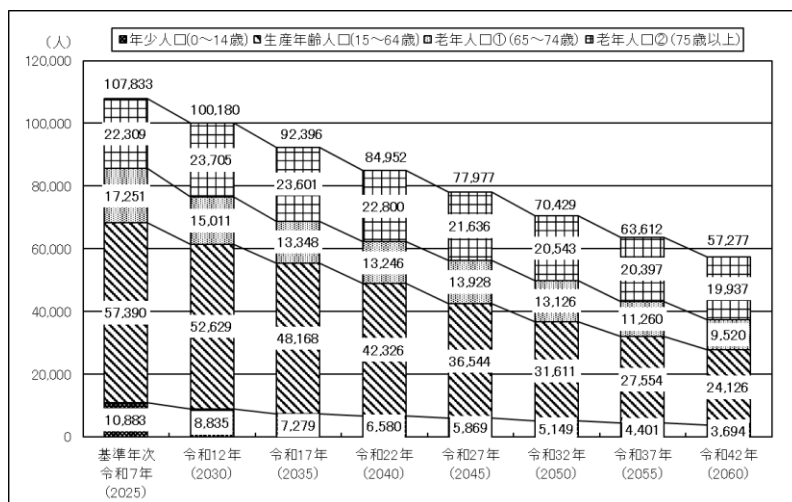
- ・進学や就職に伴う若者世代（特に10代後半～20代）の市外流出が、人口減少の最大の課題となっているため。
- ・若者、特に出産期にある女性の流出が、婚姻・出生数の減少を招き、「自然減」を加速させる「負のスパイラル」の要因となっているため。
- ・市民アンケート調査において、若者流出の主な原因として「働く場所の少なさ」が挙げられ、若年層から「魅力的な仕事・職場の確保」を求める市民の声が多いため。
- ・次期総合計画の視点である「若い世代が豊かに暮らせるまちづくり」の実現に向け、施策効果を推計に反映させ、計画の実効性と市の達成意思を示す必要があるため。

4 改訂版における人口の将来展望（目標人口）

将来推計人口

※
▶社人研推計と同様にコーホート要因法を用い、奥州市の実績に基づく補正をしたデータにより各年・各歳の人口を推計したものです。

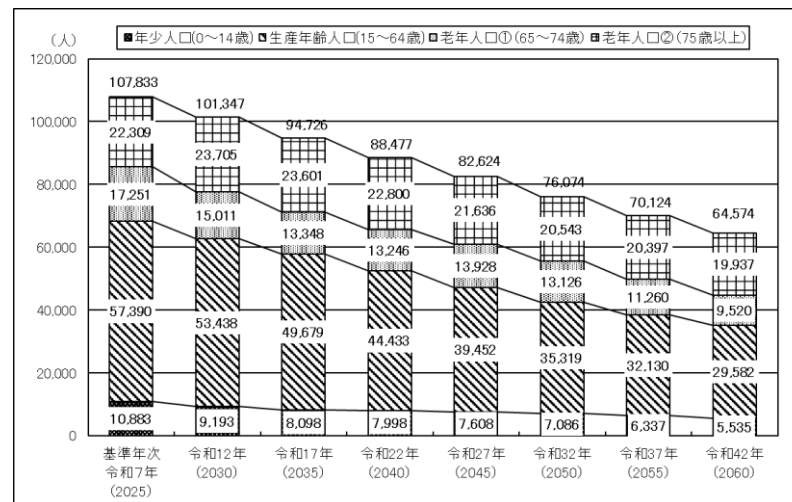
※コーホート要因法は、ある集団（同じ年に生まれた人々など）を時系列で追跡し、人口の増減要因を詳細に分析する手法です。将来推計人口では、コーホート要因法を用いて年齢別人口の変化を計算しています。既存人口は加齢に伴う死亡や人口移動を差し引き、新たに生まれる人口は出生数と生存数、移動数を順次算出して翌年の人口に組み入れます。



人口の将来展望（目標人口）

▶子育て環境の充実等を図り、本市の強みである20代の出生率の高さを維持しつつ、課題となっている**30代以降の落ち込みを全国レベルまで引き上げる**ことを目標にします。

▶若者世代への支援策等により転出超過を低減し、**進学・就職期にあたる10代後半から20代の純移動率のマイナス幅を半減**させることを目標にします。



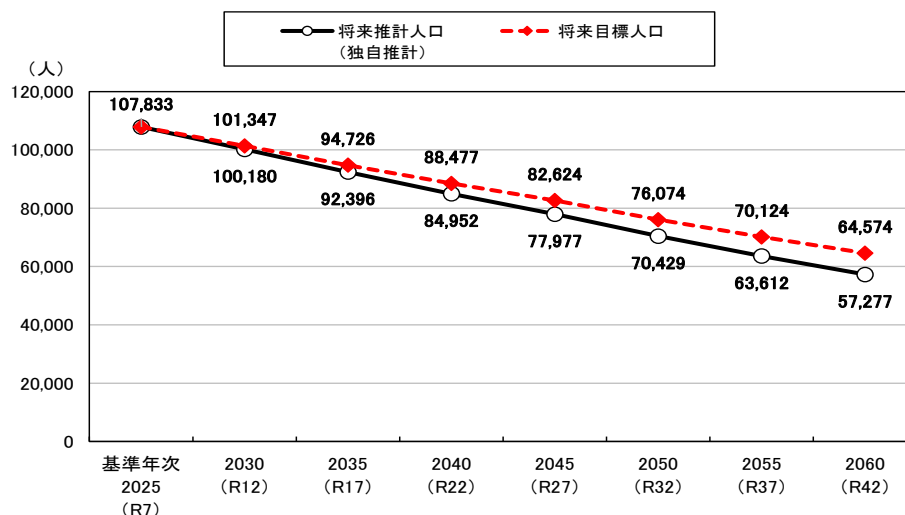
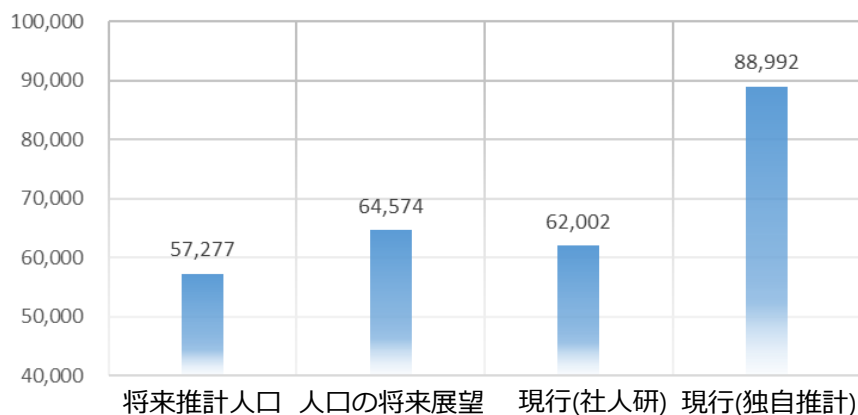
5 将来推計人口と人口の将来展望の比較

「将来推計人口」と「人口の将来展望（目標人口）」の比較

(人)

区 分	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)	2055 (R37)	2060 (R42)
将来推計人口	107,833	100,180	92,396	84,952	77,977	70,429	63,612	57,277
人口の将来展望（目標人口）	107,833	101,347	94,726	88,477	82,624	76,074	70,124	64,574
現行人口ビジョン（社人研推計）	105,642	99,012	92,590	86,231	79,798	73,565	67,618	62,002
現行人口ビジョン（独自推計）	111,865	108,161	104,627	101,168	97,646	94,360	91,440	88,992

2060 (R42)



▶近年の人口ビジョンを改訂するトレンドとして、人口の将来展望（目標人口）は、**ある程度の根拠に基づき設定**されます。

▶奥州市の2060年（R42）における人口の将来展望（目標人口）は、子育て環境の充実や若者世代への支援策などを根拠として、**約6万5千人に設定**します。